

## 水産試験場船溜まりにおけるスジエビ蟄集状況モニタリング (2021年)

大前信輔

### 1. 目的

春～初夏にかけてスジエビが蟄集する水産試験場船溜まりにおいて、簡易なトラップによる接岸状況のモニタリング調査を実施した。

今後のこれらのデータの蓄積を待ち、資源量等評価のための基礎データとする。

### 2. 方法

2021年4～7月にかけて、蟄集基体としてキンランを入れた箱形トラップ(23 cm×23 cm×30 cm)を3基設置し、約7日毎に取り上げ、スジエビ個体数と重量を記録した。採集したスジエビは、2-プロパノール(50%)で保存し、腹節側甲の腹肢の形状から雌雄と抱卵の有無を判別するとともに、デジタル画像化して、画像処理ソフト(Image-J)により画像上で頭胸甲長を測定した。

### 3. 結果

2021年と過去値の採捕数の推移を図1に示す。4月が多かったことを除いて、概ね過去と同様の変動を示し、5月下旬から6月下旬にかけてピークとなった。2021年の平均採捕数は171.3尾/日であり、過去平均(146.0尾/日)を上回った。

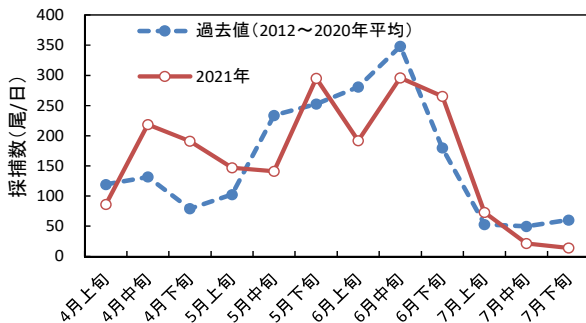


図1 採捕数の推移

重量データが残る2020年と2021年を比較すると、2021年平均値が67.0g/日であり、

2020年平均値(116.0g/日)より少なかった。この理由の1つとして図2に示すように2021年の抱卵雌重量の少なさが考えられたが、抱卵雌重量が少なかった原因については現在のところ不明である。

2021年と2020年の抱卵雌重量と抱卵率(重量ベース)の推移を図2に示す。2021年は4月下旬から抱卵雌が出現した。2020年と同様、抱卵雌重量と抱卵率ともに概ね5月下旬から6月中旬にピークを示した。

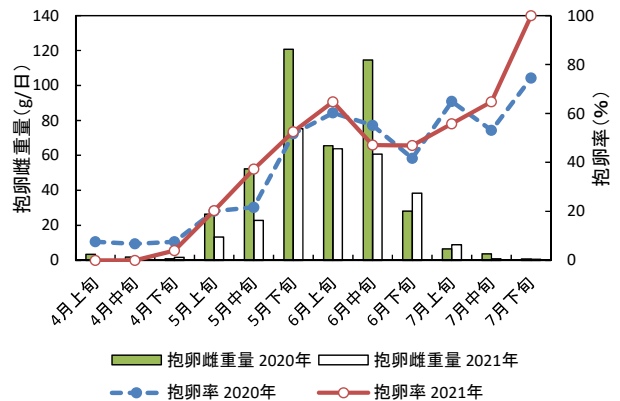


図2 抱卵雌重量と抱卵率の推移

2021年と2020年の抱卵雌の平均頭胸甲長の推移を図3に示す。2021年は4月下旬が最大で9.4mmで、以降小型化し、7月下旬は7.2mmであった。5月中旬以降は2020年と同様の大きさであった。

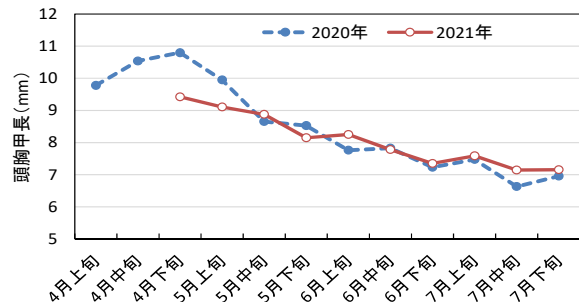


図3 抱卵雌の平均頭胸甲長の推移